

氏名	前 興 治
学 位 の 種 類	医 学 博 士
学 位 授 与 番 号	乙 第 1349 号
学 位 授 与 の 日 付	昭和58年3月31日
学 位 授 与 の 要 件	博士の学位論文提出者（学位規則第5条第2項該当）
学 位 論 文 題 目	Ganglion 内層細胞の超微形態に関する研究 —走査型電子顕微鏡および透過型電子顕微鏡観察—
論 文 審 査 委 員	教授 村上宅郎 教授 折田薫三 教授 寺本 滋

学位論文内容の要旨

ガングリオン内容物の産生機序を知る目的で、主として手関節から採取したガングリオンの内層細胞の超微細構造について、光学顕微鏡ならびに走査型電子顕微鏡（SEM）と透過型電子顕微鏡（TEM）により比較観察を行った。SEMによる観察で内層細胞を大きく4群に分類することができた。これらの細胞群で観察した顆粒様突起物は直径0.2～0.3 μ で、細胞表面にこれらが分泌されたあとと考えられる開口部もみられた。またTEMによる観察で、内層から中層にある中胚葉細胞の内外に Ruthenium Red（RR）染色に陽性の酸性ムコ多糖類の存在が多くみられた。これらの物質がガングリオン内容物の産生に重要な役割をもつものと考えられた。また、これらの物質が細胞間隙を通過して表面に排出される像もみられ、これらの分泌顆粒は SEM においてみられる顆粒様物質とほぼ同じ大きさであり、線維芽細胞がこれらの物質の産生に大きな役割をもっていると考えられる。

論文審査の結果の要旨

本研究はガングリオンについて光顕、走査電顕、透過電顕的に研究したものであるが、従来十分解明されていなかったガングリオン内容物産生と線維芽様細胞の関連について重要な知見を得たものとして価値ある業績と認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。